



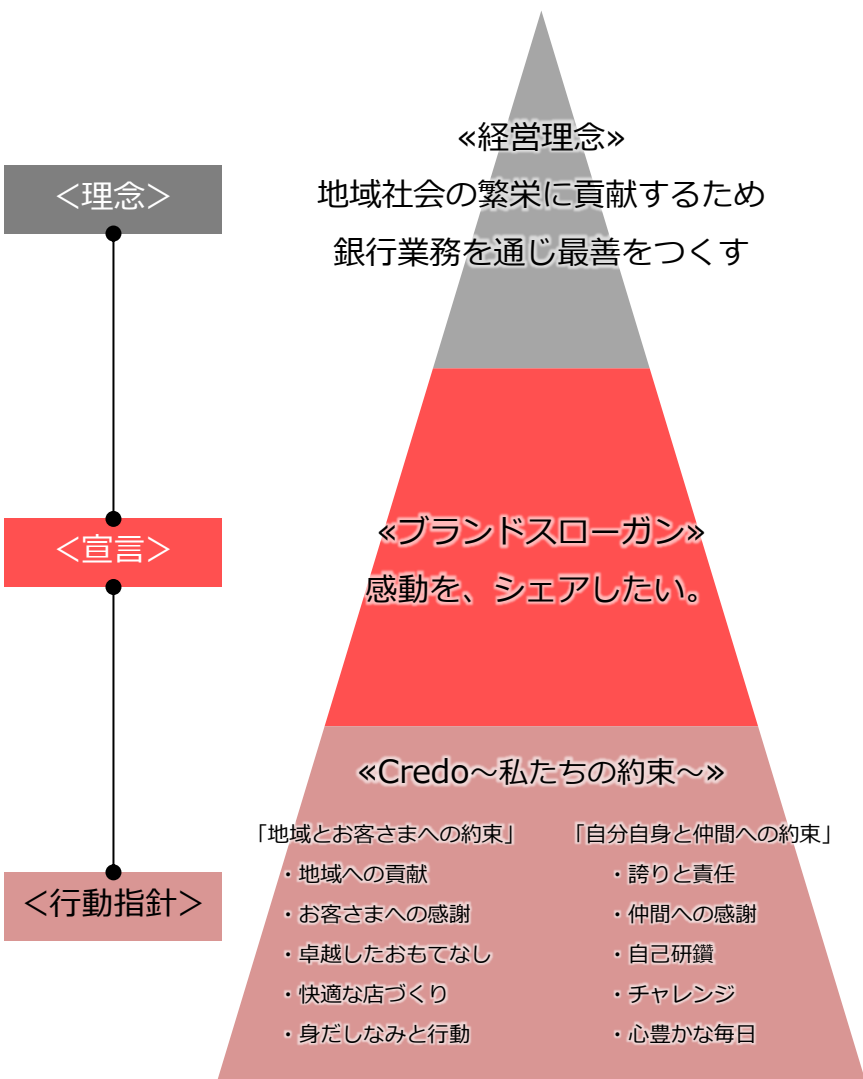
第16回 経営説明会

平成28年度決算と当行の経営戦略

平成29年7月



経営理念 体系図



概要

平成29年3月31日現在

本店	：	大分市府内町3丁目4番1号
創立	：	明治26年2月1日
資本金	：	195億98百万円
従業員数	：	1,658名（出向者および嘱託等を除く）
店舗数	：	99ヶ店（うち大分県内：88ヶ店） （代理店4ヶ店を含む、別途東京事務所・香港駐在員事務所あり）
預金等残高	：	2兆8,432億円
貸出金残高	：	1兆7,389億円
外部格付	：	A+（日本格付研究所）

平成29年6月27日現在

取締役

- (代表取締役) 取締役会長 : 姫野 昌治
- (代表取締役) 取締役頭取 : 後藤 富一郎
- (代表取締役) 専務取締役 : 兒玉 雅紀 (昇任)
- 常務取締役 : 菊口 邦弘
- 常務取締役 : 田中 秀幸
- 常務取締役 : 田中 賢児 (昇任)
- 取締役 : 高橋 靖英 (新任)
- 取締役 (社外) : 下田 憲雄
- 取締役 (社外) : 桑野 和泉

監査役

- 常勤監査役 : 衛藤 秀樹
- 常勤監査役 : 木許 禎 (新任)
- 監査役 (社外) : 小島 庸匡
- 監査役 (社外) : 岡村 邦彦

執行役員

- 常務執行役員 : 武島 正幸
- 常務執行役員 : 岡松 伸彦 (昇任)
- 執行役員 : 相良 雅幸
- 執行役員 : 甲斐 一義
- 執行役員 : 下ノ村 宏昭 (新任)
- 執行役員 : 佐藤 泰則 (新任)
- 執行役員 : 永松 秀基 (新任)



I. 平成28年度決算

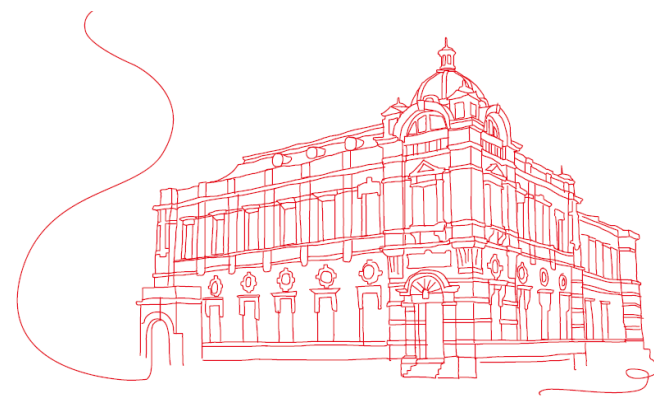
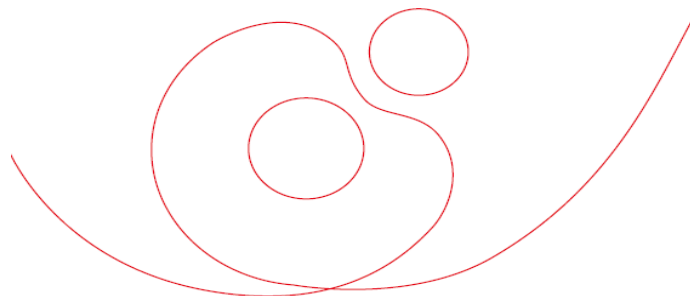
1. 決算サマリー	5
2. 資金利益、コア業務純益	6
3. 与信費用・不良債権	7
4. 預金等・貸出金	8
5. 中小企業等貸出金、 融資取引のあるお客さま数	9
6. 自己資本	10
7. 平成29年度予想	11

II. 大分県内の経済動向

1. 景気動向	13
2. 主要経済指標の推移(1)	14
3. 主要経済指標の推移(2)	15
4. 大分県のトピックス	16

III. 当行の経営戦略

1. 「中期経営計画2016」	18
2. 地域と共に成長、発展	19
3. お客さまの本業への直接支援	20
4. ライフステージに応じた提案・サポート	21
5. 個人のお客さまの多様なニーズへの対応	22
6. 行動プロセス変革	23
7. Fintech(フィンテック)への取り組み	24
8. 地方創生の取り組み	25
9. 「大分銀行 宗麟館」の活用	26
10. 文化・スポーツ活動へのサポート	27





I . 平成 28 年度決算



1. 決算サマリー

【 連結 】

(単位：億円)

連 結	平成27年度	平成28年度	増 減
連結経常収益	600	589	▲ 11
連結粗利益	433	412	▲ 21
経常利益	145	101	▲ 44
親会社株主に帰属する当期純利益	97	75	▲ 22

【 単 体 】

(単位：億円)

	平成27年度	平成28年度	増 減
経常収益	503	490	▲ 13
コア業務粗利益	402	390	▲ 12
業務粗利益	404	384	▲ 20
資金利益	348	346	▲ 2
役員取引等利益	60	58	▲ 2
その他業務利益	▲ 4	▲ 20	▲ 16
(うち国債等債券損益)	2	▲ 6	▲ 8
経費 (△)	305	294	▲ 11
業務純益 (一般貸倒繰入前)	99	90	▲ 9
コア業務純益	97	96	▲ 1
一般貸倒引当金繰入額① (△)	▲ 5	▲ 5	0
業務純益	104	95	▲ 9
臨時損益	25	▲ 4	▲ 29
不良債権処理額② (△)	12	16	4
貸倒引当金戻入益③	—	—	—
株式等損益	31	12	▲ 19
その他臨時損益	5	▲ 0	▲ 5
経常利益	130	91	▲ 39
特別損益	▲ 2	▲ 2	0
与信費用 (①+②-③) (△)	7	11	4
税引前当期純利益	127	89	▲ 38
当期純利益	90	69	▲ 21

Point 1 2期連続の減収減益

- ▶ 連結、単体ともに、
経常利益段階で2期連続の減収減益。

Point 2 コア業務純益の減少は▲1億円

- ▶ 「コア業務純益」(銀行の本業による収益力を示す)は、マイナス金利政策で金融機関の収益環境が大きく変化する中、「地域密着化戦略」の実践により、前期比▲1億円と前年並みを確保。

Point 3 臨時損益が大幅減少

- ▶ 前期に比べて臨時損益が大幅減少。
 - ・不良債権処理額が増加。
 - ・株式等損益が前年度、積極的に株式売却益を計上したため、反動減。

2. 資金利益、コア業務純益

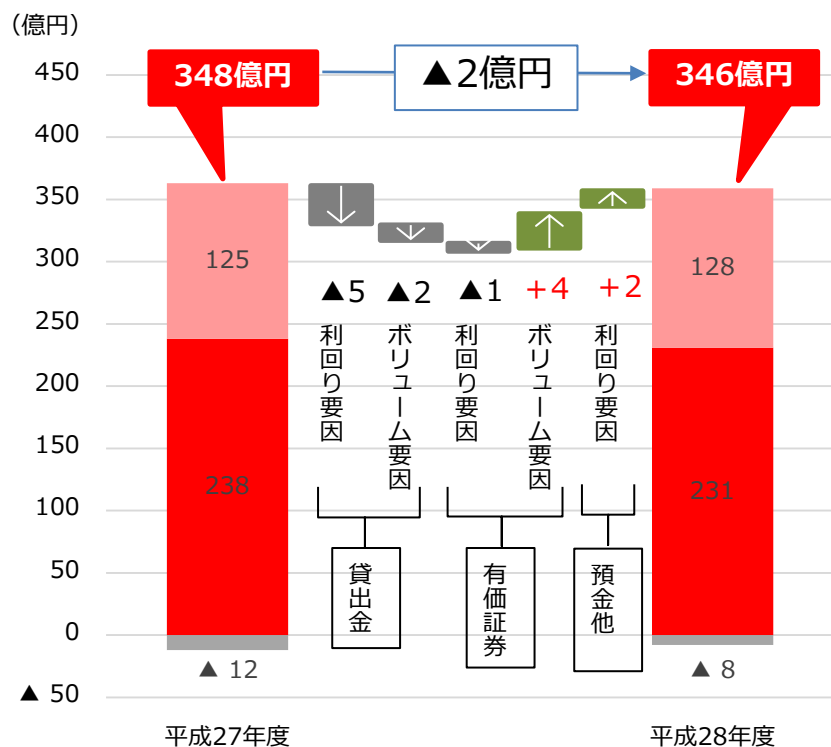
- ▶ 資金利益は地域密着化戦略の実践、有価証券運用力の強化により前期比▲2億円。
- ▶ 資金利益等の減少を抑制、経費削減に取り組み、コア業務純益は前年並みを確保。

● 資金利益

346億円

(前期比▲2億円)

【資金利益の増減要因】

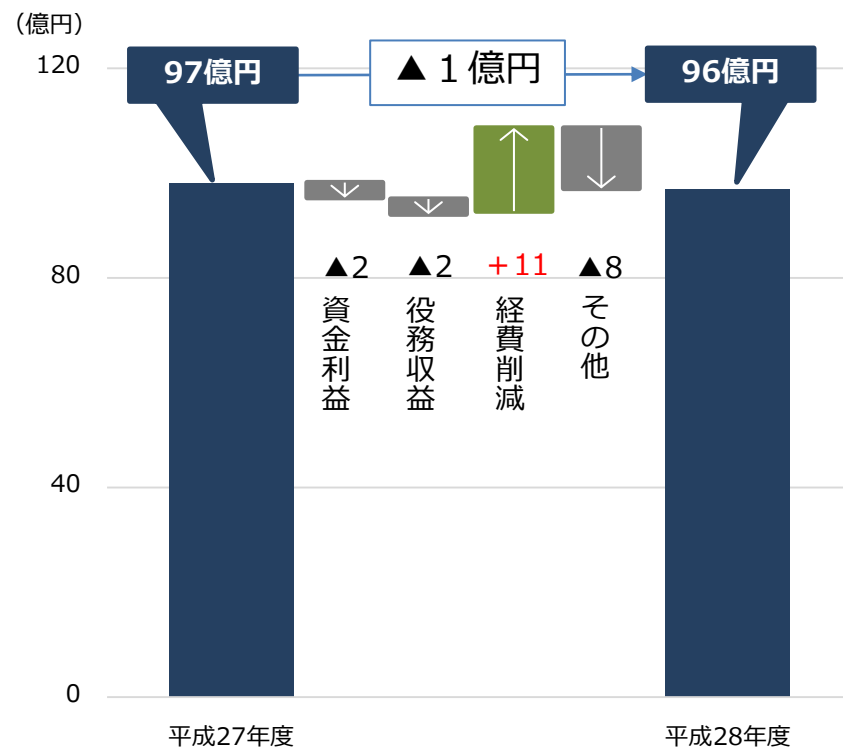


● コア業務純益

96億円

(前期比▲1億円)

【コア業務純益の増減要因】



■ 預金等利息 ■ 貸出金利息 ■ 有価証券利息

3. 与信費用・不良債権

▶ 大口与信取引先の債務者区分のランクダウン等による個別貸倒引当金の増加により与信費用は増加。 ▶ 不良債権比率は前期比0.02ポイント上昇した。

● 与信費用
1,185百万円
 (前期比+460百万円)

● 不良債権比率
3.38%
 (前期比+0.02ポイント)

【与信費用の推移】

(単位：百万円)

【金融再生法開示債権の推移】

(単位：百万円、%)

	平成27年度	平成28年度	
			対前年度比
与信費用	725	1,185	460
一般貸倒引当金繰入額	▲ 514	▲ 503	11
不良債権処理額	1,240	1,689	449
貸出金償却	0	0	0
個別貸倒引当金繰入額	1,159	1,624	465
延滞債権等売却損	75	—	▲ 75
その他	4	64	60
貸倒引当金戻入益	—	—	—
償却債権取立益	0	0	0

	平成28年	平成29年	前期末比
	3月末	3月末	
破産更生債権及びこれらに準ずる債権	4,526	5,325	799
危険債権	55,102	53,846	▲ 1,256
要管理債権	1,791	435	▲ 1,356
小 計	61,421	59,608	▲ 1,813
正常債権	1,762,149	1,701,922	▲ 60,227
合 計	1,823,570	1,761,530	▲ 62,040
不良債権比率	3.36	3.38	0.02

(注) 与信費用 = 一般貸倒引当金繰入額 + 不良債権処理額 - 貸倒引当金戻入益 - 償却債権取立益

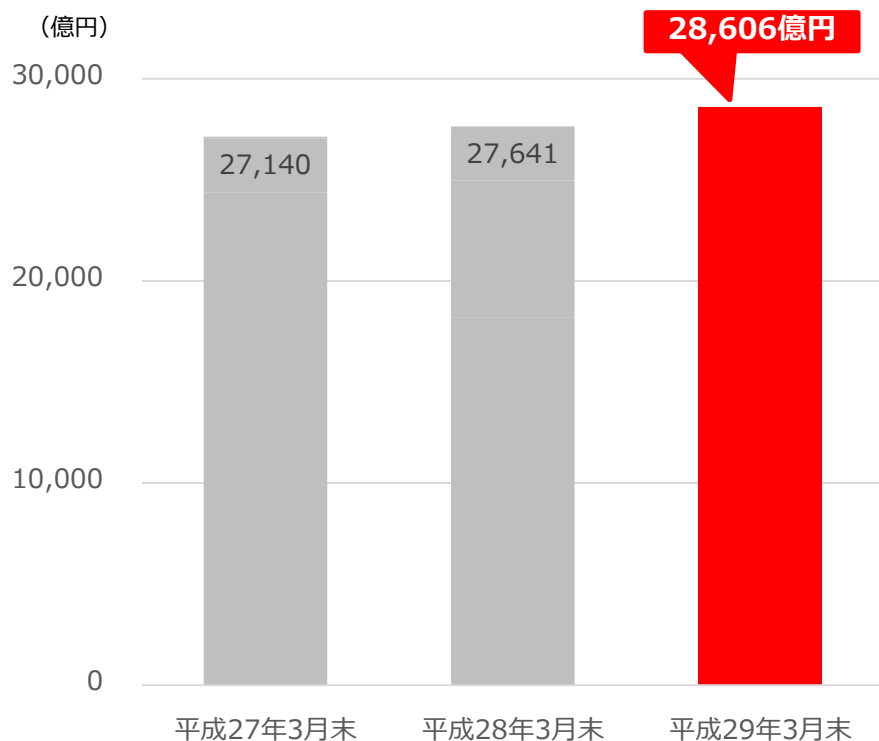
4. 預金等・貸出金

- ▶ 預金等は堅調に推移。
- ▶ 貸出金は全体では減少したが、県内事業性、個人ローンは着実に増加。

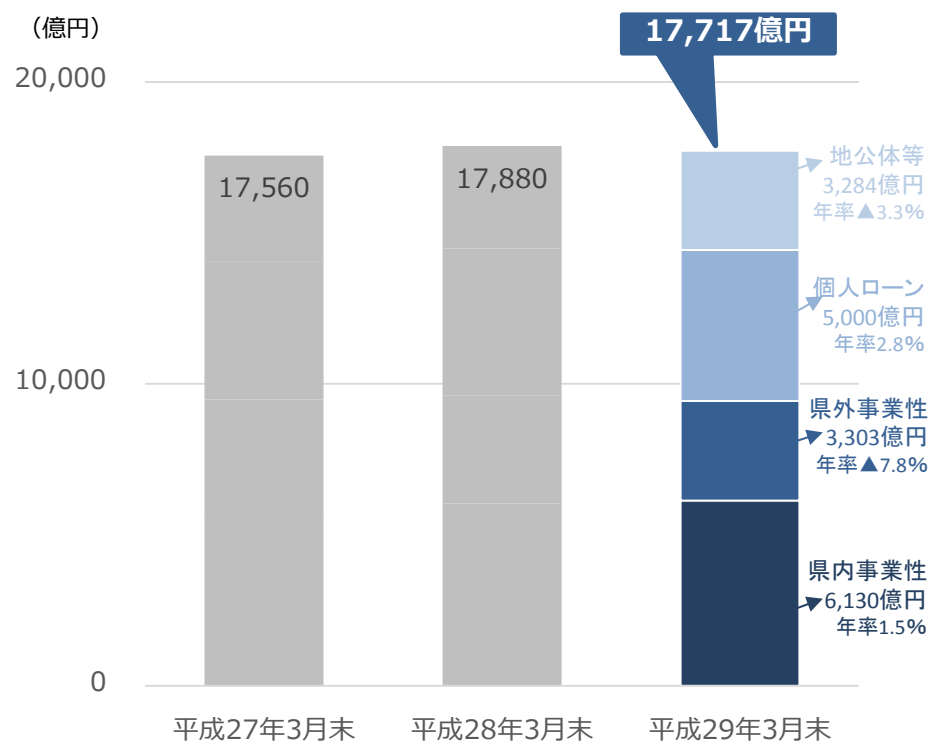
● 預金等（通期平均残高）
2兆8,606億円
 （前期末比+965億円）

● 貸出金（通期平均残高）
1兆7,717億円
 （前期末比▲163億円）

【預金等の推移（通期平均残高）】



【貸出金の推移（通期平均残高）】



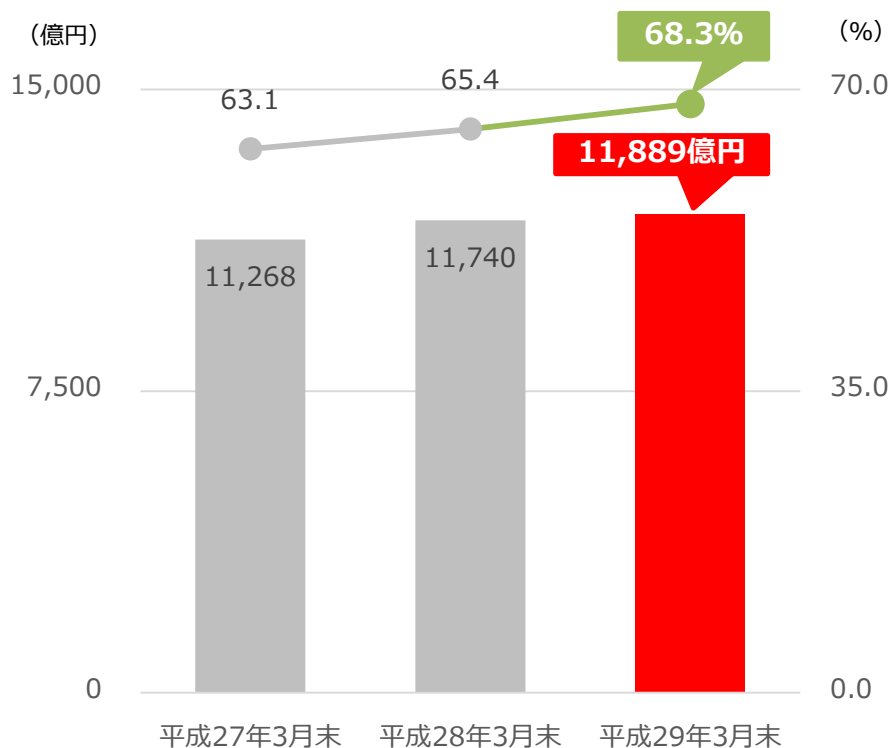
5. 中小企業等貸出金、融資取引のあるお客さま数

- ▶ 地域密着化戦略により中小企業等貸出金は着実に増加。
- ▶ 融資取引のあるお客さま数也大分県内、九州地区を中心に増加。

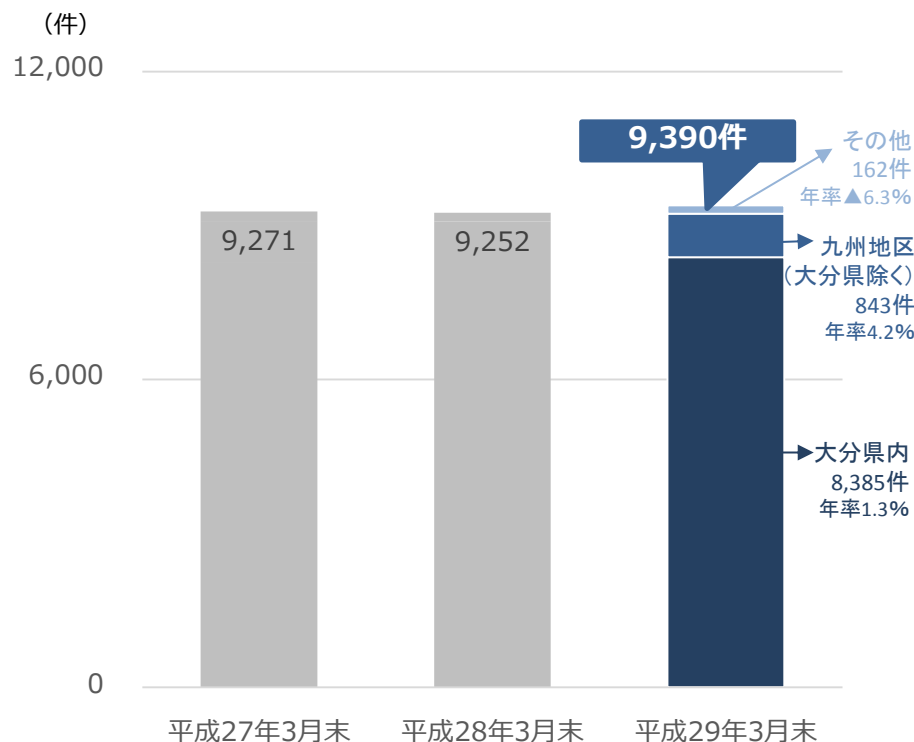
● 中小企業等貸出金
1兆1,889億円
 (前期末比+149億円)

● 融資取引のあるお客さま数
9,390件
 (前期末比+138件)

【中小企業等貸出金残高と総貸出金に占める比率の推移】

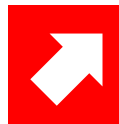


【融資取引のあるお客さま数の推移】

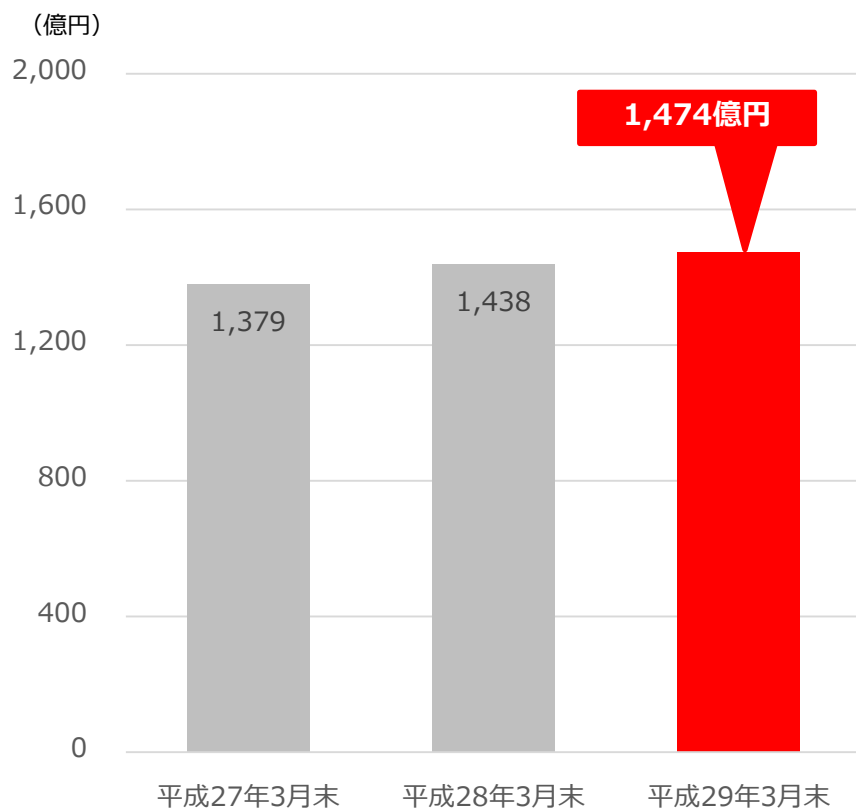


▶ 中小企業等貸出金や有価証券運用において、積極的にリスクテイクを行ったことから、リスク・アセットは増加したが、利益計上に伴う自己資本の充実により、自己資本比率は上昇。

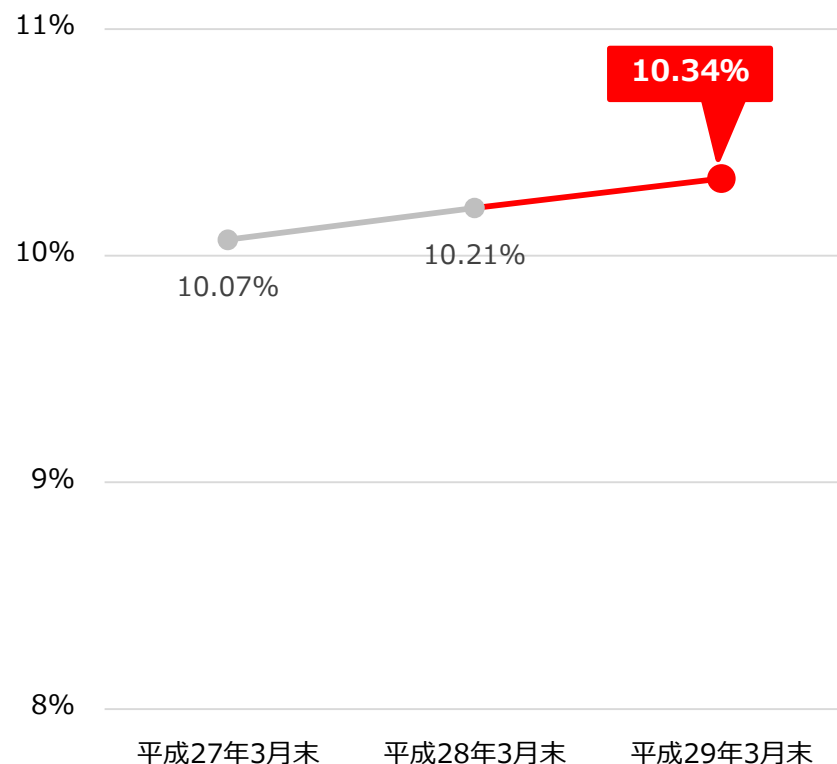
● 自己資本
1,474億円 
 (前期末比+36億円)

● 自己資本比率
10.34% 
 (前期末比+0.13ポイント)

【自己資本の推移】



【自己資本比率の推移】



7. 平成29年度予想

【 連結 】

(単位：億円)

	平成28年度 実績	平成29年度 予想	増 減
連結経常収益	589	572	▲ 17
連結経常利益	101	82	▲ 19
親会社株主に帰属する当期純利益	75	58	▲ 17

【 単 体 】

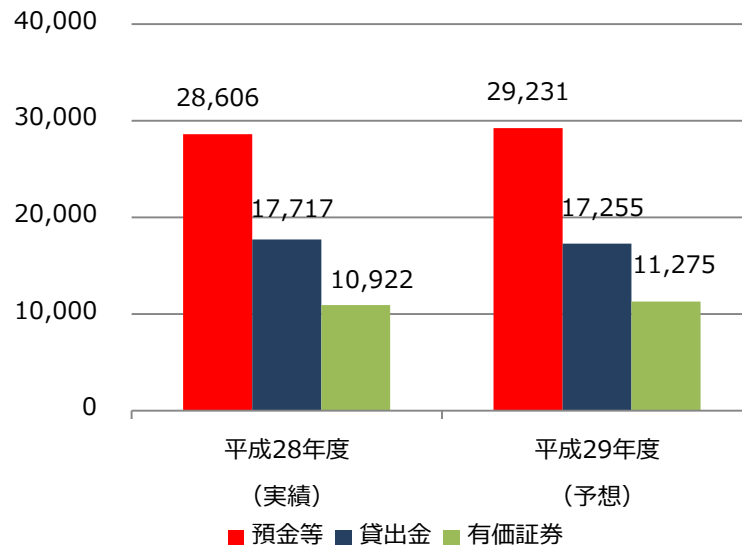
(単位：億円)

	平成28年度 実績	平成29年度 予想	増 減
経常収益	490	471	▲ 19
コア業務粗利益	390	355	▲ 35
業務粗利益	384	359	▲ 25
資金利益	346	328	▲ 18
役務取引等利益	58	56	▲ 2
その他業務利益	▲ 20	▲ 25	▲ 5
(うち国債等債券損益)	▲ 6	4	10
経費 (△)	294	294	0
コア業務純益	96	61	▲ 35
一般貸倒引当金繰入額① (△)	▲ 5	0	5
業務純益	95	65	▲ 30
臨時損益	▲ 4	6	10
不良債権処理額② (△)	16	—	▲ 16
貸倒引当金戻入益③	—	8	8
株式等損益	12	6	▲ 6
その他臨時損益	▲ 0	▲ 8	▲ 8
経常利益	91	71	▲ 20
特別損益	▲ 2	▲ 1	1
与信費用 (①+②-③) (△)	11	▲ 8	▲ 19
税引前当期純利益	89	70	▲ 19
当期純利益	69	51	▲ 18

＜業績予想の前提＞

● 預金・貸出金・有価証券の通期平均残高

(億円)



- 日経平均株価 17,000～21,000円
- 円/ドルレート 105円～125円
- 円/ユーロレート 110円～130円

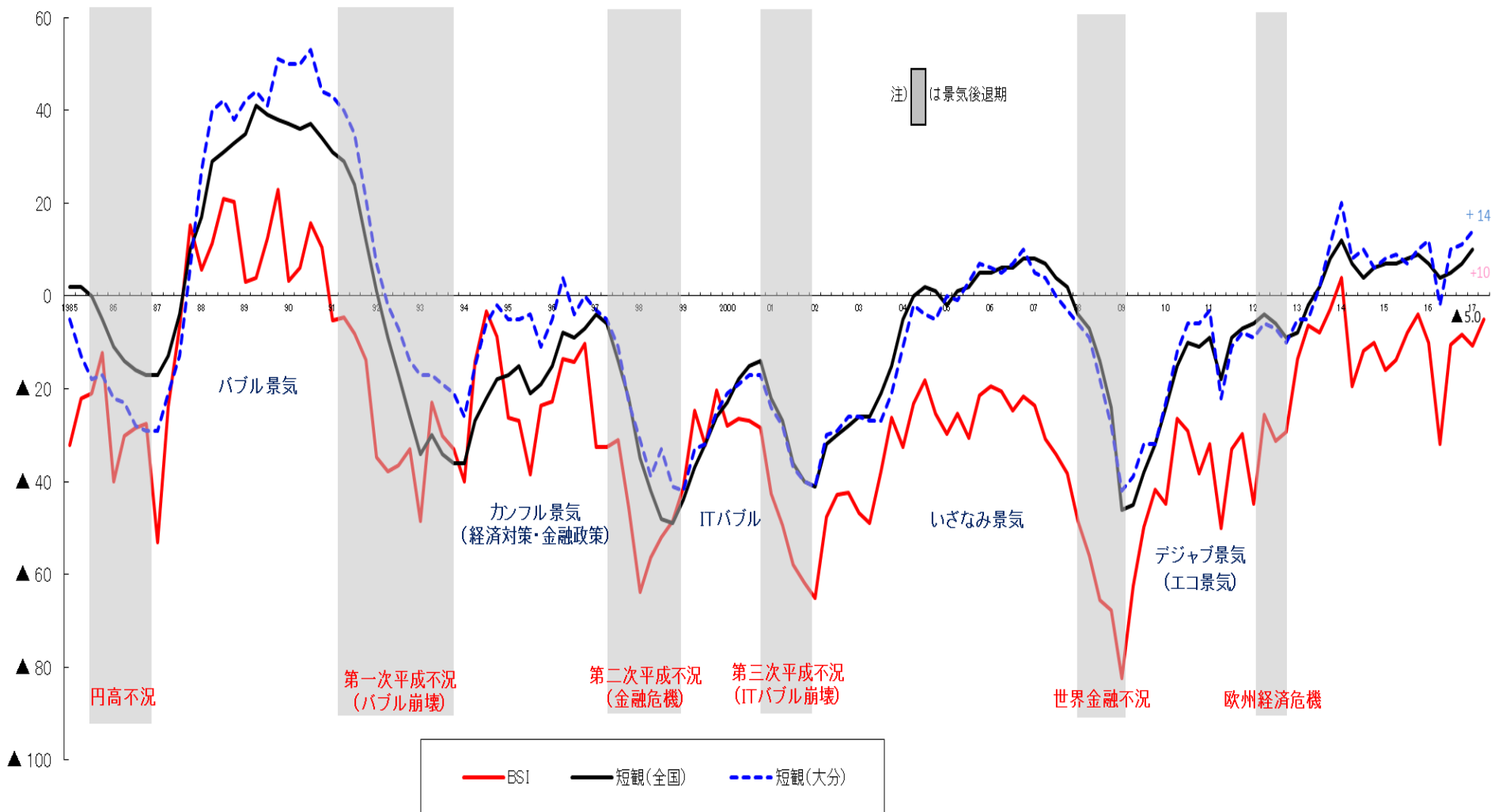
Point 3期連続の減収減益の見込み

- ▶ マイナス金利政策の影響による資金利益の減少や外貨調達コスト増加等から3期連続の減収減益見込み。

Ⅱ. 大分県内の経済動向



DKK景況意識調査(BSI)、日銀短観(大分、全国)の推移

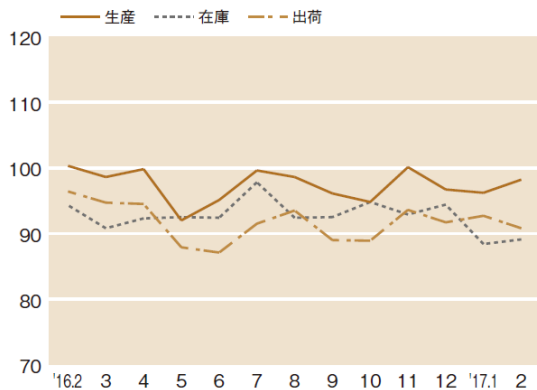


2. 主要経済指標の推移 (1) (生産・消費)

<生産>

▶横ばい圏内で推移

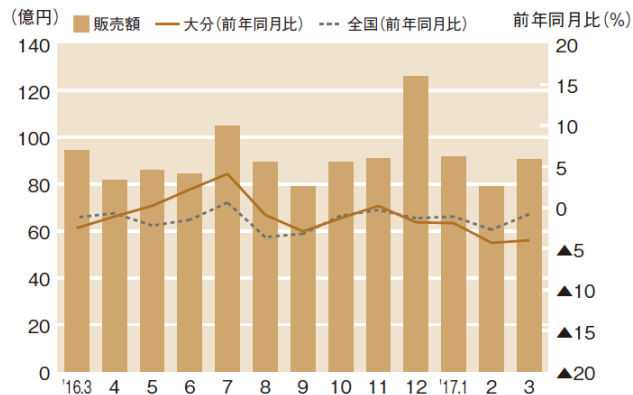
鉱工業指数の推移 (2010年=100)



資料) 大分県企画振興部統計調査課

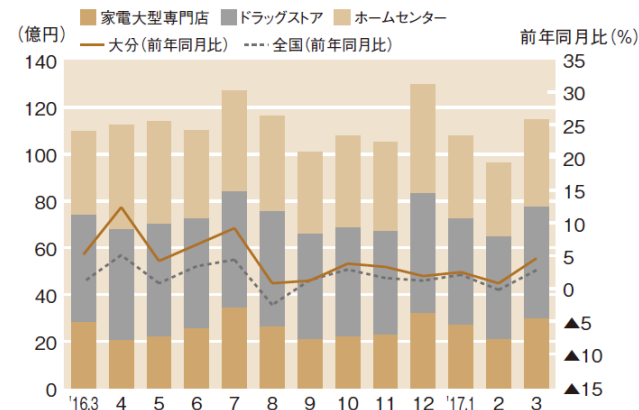
<消費> ▶底堅く推移

百貨店・スーパー販売額 (販売額は大分県)



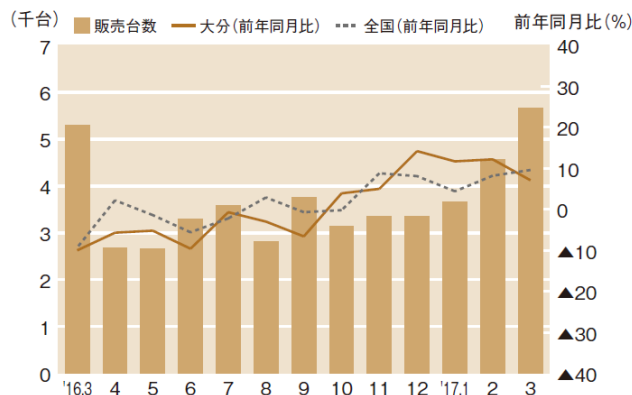
資料) 経済産業省「商業動態統計調査」

専門量販店販売額 (販売額は大分県)



注) 販売額の前年同月比は全店の販売額の合計によるもの。
資料) 経済産業省「商業動態統計調査」

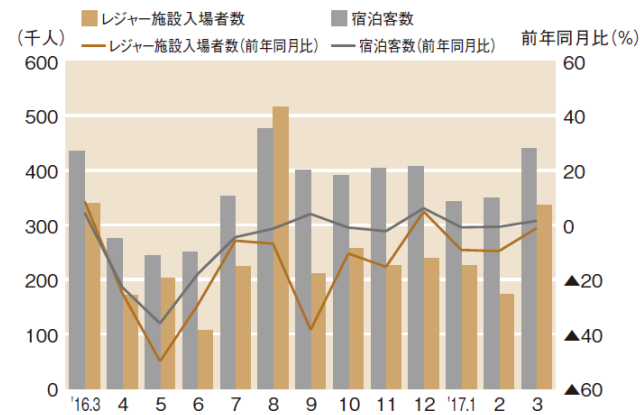
乗用車新車販売台数 (販売台数は大分県)



資料) 大分県自動車販売店協会

(観光) ▶海外客の増加に支えられ、持ち直し

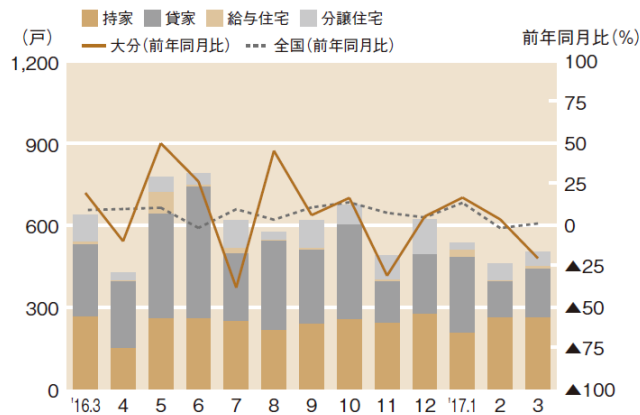
宿泊客数、レジャー施設入場者数



注) 宿泊施設は県内主要宿泊施設合計、レジャー施設は別府および隣接地区7施設合計
資料) 宿泊客数は大分県観光統計調査、レジャー施設入場者数は当研究所調べ

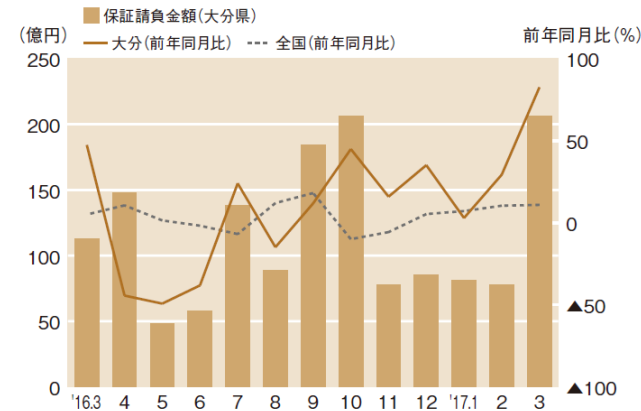
<投資> ▶住宅投資は横ばい圏内で推移、公共工事は大型工事により増加

新設住宅着工戸数（着工戸数は大分県）



資料) 国土交通省「住宅着工統計」

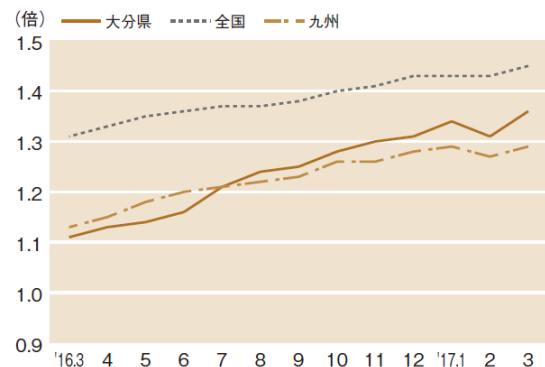
公共工事保証請負金額



資料) 西日本建設業保証

<雇用> ▶労働需給は着実に引き締まり

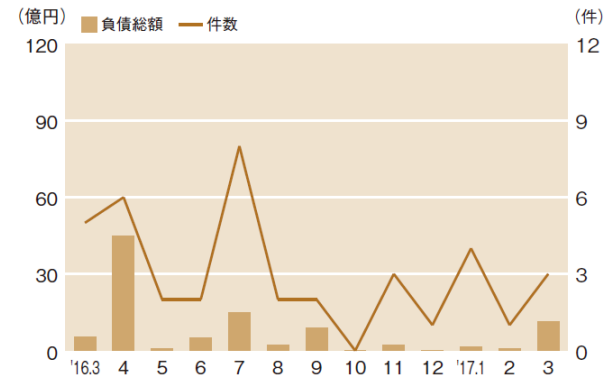
有効求人倍率の推移（季節調整済）



資料) 大分労働局職業安定課

<企業倒産> ▶低水準で推移

大分県内企業倒産の推移



資料) 東京商工リサーチ大分支店

4. 大分県のトピックス

- 県内合計特殊出生率は1.65で全国7位。前年（1.59）から増え幅0.06で全国1位。
- 県内への移住者数が増加 2016年は768人で過去最高。（日田市172人、豊後高田市166人、臼杵市69人）
- 企業誘致が増加 2016年度は過去最多の36件。（輸送用機械15件、食料品・飲料4件、サービス3件等）
- 大分県ドローン協会設立 産業用ドローンの拠点化を推進。
- 「林業成長産業化地域」に林野庁が日田市を選定
- 別府市「湯～園地」計画の実現。
- 別府地区での再開発。（既存ホテルのリニューアル、星野リゾート、大江戸温泉物語、インターコンチネンタル・ホテルズ等の進出）
- 大分市中心地の再開発。
- 「やばけい遊覧」文化庁により日本遺産に認定。（中津市、玖珠町）
- 「祖母・傾・大崩」エコパークに大分県初でユネスコ登録。（佐伯市、豊後大野市、竹田市）

<イベント予定>

- 2018年・第33回国民文化祭・おおいた2018「おおいた大茶会」開催（20年ぶり2回目）
- ・第18回全国障害者芸術・文化祭おおいた大会開催（初開催）
 - ・六郷満山開山1300年祭（豊後高田市、国東市、宇佐市、杵築市、日出町、姫島村）
 - ・世界温泉地サミット（別府市）
- 2019年・ラグビーワールドカップ2019 日本大会開催



Ⅲ. 当行の経営戦略



「中期経営計画2016」

(H28.4.1~H31.3.31 : 3年間)

Best Quality

【基本テーマ】
(スローガン)

【ビジョン】
(目指す姿)

地域への熱い「オモイ」を「カタチ」にするため行動し、
お客さまとの共有価値を創造し続ける銀行

【基本方針】
(施策の共通理念)

CSVの実現

重要課題 1
高付加価値の
実現に向けた
営業の実践

重要課題 2
成長力と持続可能性を
最大化する
基盤の強化

重要課題 3
情熱を持って行動する
人財の育成と
組織力の向上

【大前提】 コンプライアンス

大分銀行グループの成長、発展は、地域と一体の関係にある。



「CSVの実現」

CSV=Creating Shared Value (共有価値の創造)



地域社会
全体

地域の
お客さま

地域活性化への
直接関与

お客さまの本業を
直接支援



地域のお客さま、そして地域社会全体の成長、発展に向けて、積極的に直接支援、直接関与を実践していく。

「真のニーズ」に応じた、付加価値の高いサービスを実践する。

↑
お客様の経営状況
↓

---▶ お客様の業績
▶▶▶ 当行の取組姿勢

**お客様の業績の変動に関わらず、
一貫してサポートを実践する。**

《お客様の業歴》

← 取組姿勢を安易に変えず、とことんお付き合いさせて頂く。 →

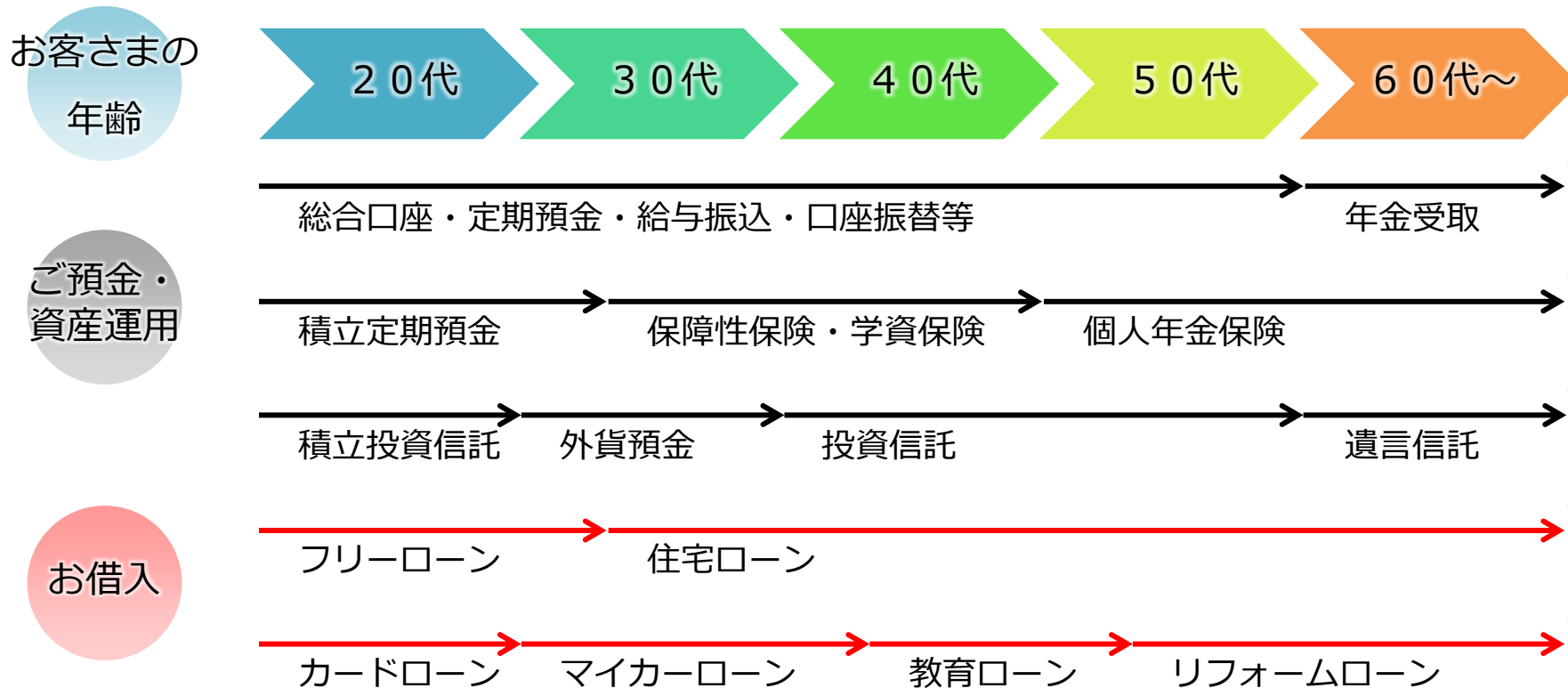
**お客様と持続的な取引関係を構築し、
売り手よし、買い手よし、世間よしの「三方よし」を実現する。**

お客様のライフステージに応じた提案・サポートを実践する。

お客様のライフステージ	創業・開業	成長・成熟	経営改善	事業再生	整理・事業承継
サポートイメージ	・創業等にあたっての各種相談受付、資金調達等をサポート	・ビジネスマッチングや海外進出、M&A等成長をサポート	・事業計画の策定から計画実行までを総合的にサポート	・事業再生や業種転換を外部機関・公的機関と連携しサポート	・自社株評価や適切なスキームの提案等、問題解決をサポート
サポート内容	資金調達（融資等）	資金調達（融資等） ビジネスマッチング	経営改善支援	事業再生支援	事業承継
	創業サポート	海外サポート M&A	販路拡大・IT化支援	DES・DDS・ DIPファイナンス	事業再生支援
	公的助成金	公的助成金 事業の多角化	必要に応じた融資支援	業種転換	M&A、廃業支援
	クラウドファンディング		コンサルティング		
サポート体系	 <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">大分銀行 本部</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">大分銀行 営業店</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">関連会社（グループ会社）</div> </div> <p style="text-align: center; font-size: 2em; margin: 10px 0;">+</p> <p>外部専門家連携機関・公的支援機関・海外提携銀行・中小企業再生支援協議会・REVIC・大分県信用保証協会等との連携</p>				

お客様毎の状況を丁寧に把握した上で、本部の専門スタッフと営業店が連携して付加価値の高いサービスを行う。

お客さまの生活をより豊かにするサポートを実践していく。



※記載の商品・サービスは一例

個人のお客さまのライフステージに応じた多様なニーズに、
しっかりと応えていく。

お客さまを基軸とした行動へ変革する「行動プロセス変革」に取り組む。

行動プロセス変革の目的

短期的な視点でなく、
お客さまを支援するプロセスを重視
 し、中長期的にお客さまの成長に資する「質」
 の高い営業を行う。

取り組み内容

- ▶ お客さまを基軸とした目線に切り替えてニーズにしっかり応える行動に変革する。
- ▶ 短期的な取り組みだけでなく、中長期的な地道な行動・取り組みを評価する。

展開状況

Step 1

平成27年度 下期 法人営業分野を対象に
 大分市内1ブロックで試行
 (古国府ブロック 7店舗)

Step 2

平成28年度 上期 大分市・別府市で実施
 (7ブロック 49店舗)

Step 3

平成28年度 下期 大分県全域で実施
 (14ブロック 88店舗)

Step 4

平成29年度 上期
 ・個人営業分野に拡大
 ・人事評価も「行動プロセス」
 を評価する制度導入

お客さまを支援するプロセスを重視し、お客さまの成長に資する
 「質」の高い営業を行う「行動プロセス変革」を実施していく。

新たな金融サービス（フィンテック）に柔軟に対応していく。

内外為替一元化コンソーシアム参加

ブロックチェーン関連技術を活用した新たな送金・決済サービスを検討する「内外為替一元化コンソーシアム」へ参加。

※参加行（平成29年5月19日現在）
地域金融機関やインターネット専業銀行など59行

ビッグデータの活用「共同MCIFセンター」参加

本部内にマーケティング室を新設、ビッグデータを活用したお客さまに役立つ提案を最適なタイミングとチャネルで行う「共同MCIFセンター」に参加。

※共同MCIFセンターとは、地方銀行9行とNTTデータが共同で運営。大量のデータを分析するシステム基盤「共同MCIFシステム」を活用する共同利用型のマーケティングサービス。

ロボアドバイザー導入

投資信託専用ロボアドバイザーツール「PORTSTAR」を導入。

※「PORTSTAR」は、インターネット専用で、当行HPから簡単な5つの質問に答えるだけで対象となる投資信託の中からお客さまに合った商品を案内するサービス。

「Yahoo!ウォレット」サービス開始

ヤフー株式会社と連携し、「Yahoo!ウォレット（Yahoo!マネー/預金払い）」サービス導入、預金口座から即時に資金を移動するオンライン決済サービスを実現。

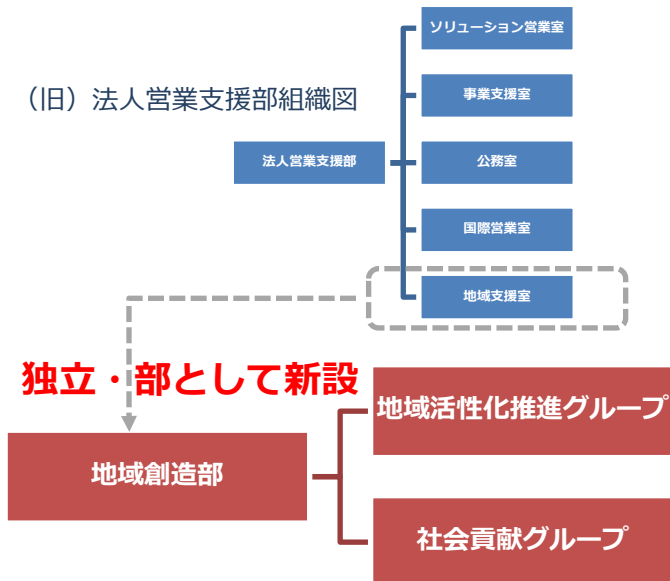


技術革新を踏まえた新たな金融サービス（フィンテック）を単独、又は他行や外部ベンダーとの連携を含めて導入・検討していく。

地方創生への取り組みを「本業」と位置付け、主体的な取り組みを行う。

地域創造部の設立

全行一丸となって地方創生に取り組むため、平成28年6月に「地域創造部」を新設。



地方公共団体との連携

地域振興のプランニング等を連携して行うため、大分県と県内の17自治体と連携協力協定を締結。

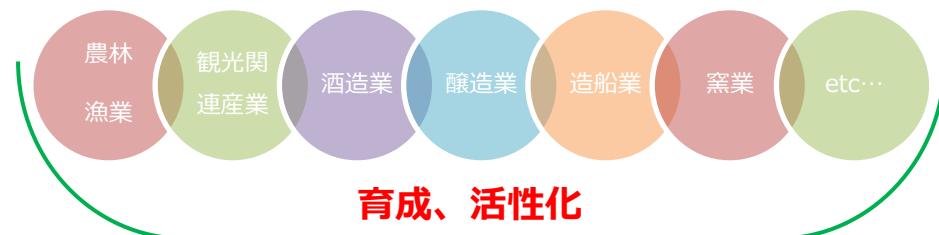


包括的な
連携協力協定



地域産業の育成

大分県の地域産業



地域創造部を中心に地域が持つポテンシャルを最大限に活用するための取り組みを行い、地域産業の育成、活性化を図っていく。

地方創生への取組みにおいて「大分銀行 宗麟館」を積極的に活用する。



宗麟館
SORINKAN

= お客様同士を結び付ける地域のプラットフォーム
(情報交換、ビジネス創造・新規起業、連携拠点)



【セミナー風景】



【商談会風景】



【展示会風景】



【商品試食・試飲会風景】

お客様が新たな商品や技術、サービス等を広く発信する場として、
また、地域におけるビジネスのハブとして、宗麟館を活用していく。

地域に「感動」や、「ワクワク感」をもたらす、文化、芸術、スポーツイベント等に対して強力なサポートを行う。

文化活動へのサポート

- 例年5月に開催される「別府アルゲリッチ音楽祭」において、唯一の特別協賛企業としてボランティアの派遣等を行っている。



その他大分銀行がサポートしている文化活動の例

<大分アジア彫刻展>



<in Beppu (個展形式の芸術祭)>



<大分ジュニアオーケストラ定期演奏会>



スポーツ活動へのサポート

- 大分銀行ドームにて、大分トリニータの試合に合わせ「だいぎんスペシャルサンクスデー」を毎年継続開催。



その他大分銀行がサポートしているスポーツ活動の例

<大分県内のプロスポーツチームへのサポート>



<べっだいウォーク>



<OITAサイクルフェス!!!>



大分銀行は、地域にどっぷり入り込み地域貢献を続けていきます。
お客さまに感動して頂けるサービスを実践します。

大分銀行ブランドスローガン

感動を、シェアしたい。



大分銀行軟式野球部 平成28年 天皇賜杯 第71回 全日本軟式野球大会 優勝時の記念写真 50年ぶりの全国制覇！！

本資料には、将来の業績に関する記述が含まれております。

こうした記述は、将来の業績を保証するものではなく、不確実性を内包しております。

将来の業績は、経営環境の変化等により、目標対比異なる可能性があることにご留意下さい。

《記載内容に関するお問い合わせ先》

株式会社 大分銀行 総合企画部

広報グループ 大嶋・橋本（電話：097-538-7617）

ホームページアドレス : <http://www.oitabank.co.jp/>



感動を、 シェアしたい。

夢を共に分かち合う。厳しさを共に実感する。長い時間を共に過ごし、考え抜き、とことん話し合う。

それも、ひとりの行員とお客さまという関係を超え、何としてもお役に立ちたいという、執念に近い情熱。

アイデアにあふれ、期待に応える提案。また、ひとりの人間としての信頼。そこで、はじめて、強い絆が生まれる。

やりきること。挑戦すること。諦めないこと。

そして、地域の皆さまやお客さまと、その発展・成功を共に喜び、「大分銀行で良かった」と感動して頂くこと。

それが私たちの、感動です。

